

② 開催記

第1回 ATF コンファレンスが11月12日(日)～14日(火)、ロイヤルホテル八ヶ岳にて開催されました。財団設立30年の節目にあたり、設立趣意を振り返り、より幅広い交流の機会を設ける為に、研究会員、評議員、理事と財団関係者全員を対象とし、さらに外部の講演者、奨励賞授賞者、研究助成採択者も招待いたしました。参加者80名、参加率70%以上と大勢が集まり、招待講演、専門研究講演、参加自由な研究会、そして深夜まで続いた意見交換会と、活発でとても有意義な2泊3日の交流となりました。

冒頭に遠藤守信理事長から挨拶がありました。

当財団は1993年の設立以来、我が国の科学技術振興への貢献を目指し、これまで過去30年にわたって成果を蓄積して参りました。社会環境の変化や科学技術界の要請を考慮し、未来を見据えた事業として、当ATFコンファレンスを新たに展開いたします。斯界で活躍する広範な研究者、技術者が一堂に会して分野を越えて交流や議論を深め、新鮮な出会いで相互に科学的刺激を交換し、また若手研究者など人的資源の育成・開発にも資することを目的としています。



ここでの多次元の研究者交流や絆の構築が、ご参加の皆様の将来の発展に繋がりますよう、有効なプラットフォームとして機能するよう努めて参ります。豊かな人的交流で知の交換・継承の促進等の一助になると期待しています。そしてこのプラットフォームにおいて、イノベータのDNAのC.クリステンセン教授の言う『ネットワークング力』の強化や、マーク・グラノベッター博士の提唱する『Strength of weak ties (弱い紐帯の強み)』に繋がる良き機会が、ご参加の皆様提供される場になることを念願しています。



関係各位には特段のご理解と今後の発展に向けて一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。また日頃より当財団の活動に対して幸甚なるご支援を賜っているセイコーインスツル株式会社に対して厚く御礼申し上げます。次第です。

【招待講演】

- 小泉英明氏 評議員、(株)日立製作所 名誉フェロー
「脳科学から見た創造性・先端性とは？」
ーロードマップによる線形研究の限界を超えるー
- 川合眞紀氏 自然科学研究機構 機構長
「教育・研究に求められる国際化・オープン化そして自律性」
- 藤井啓祐氏 大阪大学大学院基礎工学研究科 教授
「量子コンピューティングが拓く未来社会」



<小泉英明氏>



<川合眞紀氏>



<藤井啓祐氏>

【奨励賞 授与式と受賞講演】

松尾貞茂 理化学研究所創発物性科学研究センター
「並列ジョセフソン接合間に流れる
非局所超伝導電流の制御」

外間進悟 京都工芸繊維大学応用科学課程
「細胞内ナノ領域に生じる温度を
計測可能な量子センサーの創出」



【5 研究会開催】



(委員長)

スピントロニクス研究会 (齊藤英治 東京大学)
 バイオ単分子研究会 (渡邊力也 理化学研究所)
 ナノカーボン研究会 (丸山茂夫 東京大学)
 界面ナノ科学研究会 (柴田直哉 東京大学)
 ナノメカニクス研究会 (都甲 潔 九州大学)

【研究助成成果発表】

日置友智 東京大工学系研究科物理工学専攻 助教
「ナノ磁性体を基盤とした磁化状態トモグラフィ法の開拓」

田中正樹 東京農工大学大学院工学研究院生命工学専攻 助教
「成膜過程表面における分子配列制御」

稲葉央 鳥取大学学術研究院工学系部門応用化学講座 准教授
「ペプチドを用いたタンパク質繊維内包微小管の創製」

川脇徳久 東京理科大学理学部応用化学科 講師
「金属ナノクラスター連結体による次世代電子材料の創製」

江部日南子 山形大学学術研究院理学部主担当 助教
「精密重合を用いた超集積ペロブスカイト量子ドットレーザー」



<食事中も研究質疑>



<講演者を囲み深夜まで討論>



<屋上からの絶景>

